

「強い農業とは人の所得を奪い自分の所得を上げることで
ですか？」

平成 27 年 2 月 24 日

●一生百姓さんからの質問

政府が言っている強い農業の意味がいまいち理解できません。TPP に参加すれば安い農産物と勝負しなければいけません。また、農業を会社化して効率を上げればよいと言いますが実際には外国人を雇い人件費をカットする方法が目立ってきていると思います。人の所得を奪い自分の所得を上げる方法がいいのでしょうか？日本人は心をなくしていくと思います。

●西田昌司の答え

二次産業や三次産業は法人が主体ですが、一次産業である農業は他の産業とは異なっており、農家が農業を営み、農家の協同組合である農協が農家を束ね、さらに中央会（都道府県段階）・全中（全国段階）が農協を指導、といったように三角形のピラミッド構造ができあがっています。特別民間法人の全中は単位農協への監査サービスを独占する権利を特別に持っており、経団連のように一般社団法人にしてみてもっと緩やかな組織にすべきでは、という意見もあって、今回の農協改革では全中の一般社団法人化がクローズアップされています。「強い農業」にするには、農業の法人化という考えを取り入れる必要もあるとは思いますが、農業が今のような形態になったのはそれなりの理由があります。

戦後、GHQ により農地改革が行われて多くの小作農が自作農になりましたが、小規模自作農がバラバラに農業を営むのでは大資本の購買力・販売力に負けてしまうということで、日本政府や GHQ は農業協同組合の設立を奨励し、現在の農協に至っています。小作農から自作農に転じた農家の農業に

対する意欲は圧倒的に高まって生産性も向上しましたし、農地改革にはプラス面も多くありました。

しかし戦後 70 年経った現在、都市に人口が集中する一方で、地方では過疎化が進んで農業の後継者不足が問題になっていますし、自由貿易の時代となって海外から安い食糧が大量に輸入されることにより農産物価格が低下し、国内の多くの農家は廃業に追い込まれました。このような状況に対応するために、農業を法人化し、農地を集約化・大規模化して生産性を上げるといった議論は当然出てきます。自作農を営まれている方々は土日もろくに休みを取れずに重労働を強いられているという問題もありますが、農業を法人化すれば休みも順番に取れますし、後継者不足問題の解決策にもなるでしょう。

農協は法人格を持っていますので、農協は営農もできますし、実際に営農している農協もあります。農協とは「農家の協同組合」を意味しますが、2011 年事業年度末現在で農協の正組合員数が 467 万人に対し、准組合員数（A コープで買い物をしたり、ガソリンスタンドで給油する等の農協サービスを利用したい地域住民が、一定の出資金を支払って加盟する。正組合員とは異なり、農協に対する議決権はない）が 517 万人と、正組合員よりも准組合員の方が多くなっており、本来は農家の協同組合である農協が農家の集まりでもなくなってきています。今回の農協改革では、准組合員の農協サービスの利用制限が議論され、今回は「准組合員の利用制限」は盛り込まれませんでした。今後 5 年間で実態調査を行い、改めて措置を決定することが盛り込まれました。

農業の法人化による効率化が今後の流れでありますし、今回の農協改革では全中を一般社団法人化して指導権を緩め、農業業界特有の三角形のピラミッド構造を見直すこととなりました。今後、農協が協同組合から株式会社に変われば「准組合員の利用制限」といったことも騒がれなくなりますが、株式会社化すると外資による買収・合併からいかに守るかという問題が必ず出てきます。また、農協の株式会社化を許してしまうと、イオンのような企業にも農業生産法人を作って営農する権利を認めなければならない話になっ

てしまいます。このようなイコール・フッティングにより、国全体の農業所得は増えるかもしれませんが、現在の農家の方々は太刀打ちできずに淘汰されてしまうでしょう。

また、株式会社の目的は「利益の追求」ですから、儲かるところには投資しますが、儲からないところには投資をしません。条件不利地・中山間地域では農業をやっても儲かりませんから、そのような土地の農業が衰退して農地も荒れてしまいますし、規模拡大・効率化の発想ではこのような問題は解決しません。日本の隅々の農地を守るためには所得補償という考えも取り入れる必要がある、と私は何度も主張してきましたが、今回の農協改革にはこの点が見えていません。

このように、農業の法人化には様々な懸念事項がありますが、現在の農政は農地改革による大量の自作農の出現に合わせて作られた制度であり、70年が経過して現状にそぐわない面があるのも事実であります。農協改革が亡国につながらないよう、しっかりとした議論をしなければなりません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>